

★学校教育目標	○たくましい子	○たすけあう子	◎かながえる子	★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン）	【めざす児童・生徒像】 ① 心身共に強く健康な児童 ② 温かな心もち、力を合せて活動する児童 ③ 郷土を愛し、自ら考え表現する児童 【めざす学校像】 ① 学び活動する楽しさがあふれる学校 ② 安全・安心で、豊かな情操を育む学校 ③ 保護者・地域と共に歩む学校 【めざす教師像】 ① 全ての児童に学ぶ喜びを味わわせる教師 ② 児童相互の友情や信頼を築く教師 ③ 学校組織を活性化させる教師			★重点計画の概要 ○望ましい人間関係の形成を図り、目標をもって取り組み、達成感や達成感を味わわせ、自己肯定感や自己有用感を高める。 ○地域密着型の学習活動を実施して、思考力・判断力を育てるとともに地域に対して愛着をもたせる。 ○児童が「わかる」「できる」といえる授業をめざしてユニバーサルデザイン化を進め、家庭学習と連動して基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ○いじめの発生を防止する。 ○食への関心を高めるとともに、自ら運動する習慣を身に付けさせることにより、健康で体力を高める児童の育成に努める。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標		成果指標
子供	小中9年間の学びの連続性の中で、学区域（豊田、川辺堀之内、南平）や日野市に愛着をもち、考える児童を育成する	・目標とする児童・生徒像「問題を発見し追究する力」「人とかかわる力」「自己の役割を果たす力」を実現するための指導を開発する	・生活科や総合的な学習の時間で、共に学び合い、課題を解決する授業を展開する  ・地域とかかわりのある学習計画を系統的に組み立て、日野市や豊田のよさを感じることが出来る授業を展開する。	4 地域とかかわりのある単元を計画し、課題を追究する授業を展開した教員が90%以上	4 日野市や豊田のよさを表現することができた児童が全体の90%以上	
				3 地域とかかわりのある単元を計画し、課題を追究する授業を展開した教員が80%以上	3 日野市や豊田のよさを表現することができた児童が全体の80%以上	
				2 地域とかかわりのある単元を計画し、課題を追究する授業を展開した教員が70%以上	2 日野市や豊田のよさを表現することができた児童が全体の70%以上	
				1 地域とかかわりのある単元を計画し、課題を追究する授業を展開した教員が70%未満	1 日野市や豊田のよさを表現することができた児童が全体の70%未満	
教職員・学校	全ての児童に目標をもって取り組み、達成感や達成感を味わわせ、自己肯定感や自己有用感を高める	・問題解決的な学習を取り入れた学習を展開し、目標を明確にもたせ、学習への取り組みを通して達成感や達成感を味わわせ、児童一人一人の自己肯定感を高める指導をする。  ・授業のUD化を図る	・様々な教科で積極的に「対話的・協働的な深い学び」の手法を取り入れた問題解決学習を展開する  ・目標を明確にもたせ、学習への取り組みを通して達成感や達成感を味わわせ、児童一人一人の自己肯定感を高めることが期待できる授業を展開する。  ・どの児童にも分かりやすく、学習課題を明確にもって取り組めるUD化した授業を展開する ・家庭学習の基本的な考え方や進め方について、「家庭学習の虎の巻」を作成し、保護者に配布して家庭との連携をして家庭学習の習慣化を図る  ・学年主任を中心として各担任間で、1年生から6年生まで発達段階を考慮した系統性についての共通理解をし、家庭学習の推進をする	4 どの児童にも目標を明確にもたせ、学習への取り組みを通して達成感や達成感を味わわせる授業を積極的に起こした教員が90%以上	4 自己肯定感が高まったと感じた児童が、90%以上	
				3 どの児童にも目標を明確にもたせ、学習への取り組みを通して達成感や達成感を味わわせる授業を積極的に起こした教員が80%以上	3 自己肯定感が高まったと感じた児童が、85%以上90%未満	
				2 どの児童にも目標を明確にもたせ、学習への取り組みを通して達成感や達成感を味わわせる授業を積極的に起こした教員が70%以上	2 自己肯定感が高まったと感じた児童が、80%以上85%未満	
				1 どの児童にも目標を明確にもたせ、学習への取り組みを通して達成感や達成感を味わわせる授業を積極的に起こした教員が70%未満	1 自己肯定感が高まったと感じた児童が、80%未満	
学校、家庭、地域・社会	家庭での学習習慣を定着させる	・自主的に家庭学習に取り組む態度を身に付けさせるために、家庭との連携を強化する	・家庭学習の基本的な考え方や進め方について、「家庭学習の虎の巻」を作成し、保護者に配布して家庭との連携をして家庭学習の習慣化を図る  ・学年主任を中心として各担任間で、1年生から6年生まで発達段階を考慮した系統性についての共通理解をし、家庭学習の推進をする	4 家庭との連携を図り、家庭学習を積極的に推進する教員が90%以上	4 学年×10分の家庭学習に毎日取り組んだ児童が90%以上	
				3 家庭との連携を図り、家庭学習を積極的に推進する教員が80%以上	3 学年×10分の家庭学習に毎日取り組んだ児童が80%以上	
				2 家庭との連携を図り、家庭学習を積極的に推進する教員が70%以上	2 学年×10分の家庭学習に毎日取り組んだ児童が70%以上	
				1 家庭との連携を図り、家庭学習を積極的に推進する教員が70%未満	1 学年×10分の家庭学習に毎日取り組んだ児童が70%未満	
生活指導	いじめゼロを目指す	・スクールカウンセラーと連携しながら、いじめの早期発見、早期対応をする  ・児童全員の居場所があり、教師と児童、児童同士が信頼できる学級を実現する	・いじめアンケートを2か月に1回実施し、児童の実態を把握することで児童理解に努める  ・担任や児童同士で協力したり認めたりする機会を意図的、計画的に設ける  ・「親切・おもいやり」「いじめ」に関する授業を各担任が学期に1度おこなう	4 毎日、「親切、思いやり」「いじめ」にかかわる指導をおこなう	4 学期末に継続しているいじめの件数が学校全体で0件	
				3 2日に1回、「親切、思いやり」「いじめ」にかかわる指導をおこなう	3 学期末に継続しているいじめの件数が学校全体で1件	
				2 3日に1回、「親切、思いやり」「いじめ」にかかわる指導をおこなう	2 学期末に継続しているいじめの件数が学校全体で2件	
				1 1週間に1回、「親切、思いやり」「いじめ」にかかわる指導をおこなう	1 学期末に継続しているいじめの件数が学校全体で3件以上	
特別活動	児童に主体的に学校生活上の課題を解決させることを通じて、人と共に考える力を身に付けさせる	・児童会、委員会、クラブ、学級会等における会議の進め方のスタンダードを作成する  ・なかよし班活動を充実させる	・学級会の進め方のスタンダードを教員間で共通理解し、子供まつりや運動会等の行事に向けての話し合い活動で活用する  ・なかよし班活動の目的を意識した活動を行わせるため、班長への事前指導を徹底する  ・異学年の交流を深めるために、なかよし班会議やなかよし班給食を実施する	4 話し合い活動（学級会）を月に1回以上実施する教員が90%以上	4 話し合いで、課題を解決するための意見を言うことができたと答える児童が80%以上	
				3 話し合い活動（学級会）を月に1回以上実施する教員が80%以上	3 話し合いで、課題を解決するための意見を言うことができたと答える児童が70%以上	
				2 話し合い活動（学級会）を月に1回以上実施する教員が70%以上	2 話し合いで、課題を解決するための意見を言うことができたと答える児童が60%以上	
				1 話し合い活動（学級会）を月に1回以上実施する教員が70%未満	1 話し合いで、課題を解決するための意見を言うことができたと答える児童が60%未満	
体育	運動を好み、進んで運動する児童を育成する	・休み時間には校庭で元気に遊ばせる  ・児童が体を動かす楽しさを味わったり、運動に夢中になったりする体育の授業を実現する  ・体育的行事を通じて運動のよさや達成感を味わわせる	・体を動かす楽しさや心地よさを感じることができるよう、休み時間の楽しみ方を指導したり、休み時間に教員と一緒に運動したりして、校庭で元気に遊ぶ指導をする。  ・「ゲーム」及び「ボール運動」領域の1単位時間の指導計画をモデル化し、見直しをもって活動に取り組みさせる  ・各学年の実態に応じた体育用具を充実させ、活用することで運動に親しませる	4 休み時間、校庭に出て元気に遊ぶ指導をした教員が90%以上	4 「体を動かすことが楽しい」と答える児童がクラスの90%以上	
				3 休み時間、校庭に出て元気に遊ぶ指導をした教員が80%以上	3 「体を動かすことが楽しい」と答える児童がクラスの80%以上	
				2 休み時間、校庭に出て元気に遊ぶ指導をした教員が70%以上	2 「体を動かすことが楽しい」と答える児童がクラスの70%以上	
				1 休み時間、校庭に出て元気に遊ぶ指導をした教員が70%未満	1 「体を動かすことが楽しい」と答える児童がクラスの70%未満	
食育	食への感謝の心をもち、食に関する知識及び判断力と望ましい食習慣を身に付けた児童を育成する	・食のありがたさ、大切さを理解させる  ・望ましい食マナーを身に付けさせる  ・給食を残さずいただくようにする	・ふれあい給食会（栄養士、調理員、地域の方との交流会食会）を全学級で実施し、食への感謝の意識を高めるようにする  ・給食時間の流れ（準備や片付け及び食事の時のマナーなど）について、全教員共通理解して取り組み、食事をする時間を確実に確保し、各学級の残菜を減らす	4 食への感謝の意識を高める指導を毎日行う教員が90%以上	4 常時完食する児童がクラスで90%以上	
				3 食への感謝の意識を高める指導を毎日行う教員が80%以上	3 常時完食する児童がクラスで80%以上	
				2 食への感謝の意識を高める指導を毎日行う教員が70%以上	2 常時完食する児童がクラスで70%以上	
				1 食への感謝の意識を高める指導を毎日行う教員が70%未満	1 常時完食する児童がクラスで70%未満	
幼保中との連携	学びの連続性の中で、希望をもって学校生活を送る児童を育成する	・スタートカリキュラムを整備し、小学校生活への円滑な適応を図る  ・幼保と定期的に交流させ、親近感や思いやりの心をもたせる  ・6年生に中学校生活に対する見直しや希望をもたせる	・特別支援教育の視点にたったスタートカリキュラムを活用し、小学校生活に適応できるよう、見直しをもたせる  ・1年生の生活科や3・4・5年生の総合的な学習の時間において、幼保小の交流を活発にする単元計画を整備する  ・部活体験や出前授業など中学校生活を体験させる機会をもつ	4 年間4回、幼保中との交流活動を行う	4 80%以上の1年生の児童が「学校は楽しい」と答え、6年生児童が中学校生活に期待していることがあると答える	
				3 年間3回、幼保中との交流活動を行う	3 70%以上の1年生の児童が「学校は楽しい」と答え、6年生児童が中学校生活に期待していることがあると答える	
				2 年間2回、幼保中との交流活動を行う	2 60%以上の1年生の児童が「学校は楽しい」と答え、6年生児童が中学校生活に期待していることがあると答える	
				1 年間1回、幼保中との交流活動を行う	1 「学校は楽しい」と答える1年生児童及び、中学校生活に期待していることがあると答える6年生児童が60%未満	

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。